30-1031 W107-1

城西国際大学 early exposure に関する一考察～福祉・介護施設見学のアンケートから～

○富澤 崇[1], 神谷 貞浩[1], 和田 誠基[1], 高倉 淳[2], 中島 新一郎[1]([1]城西国際大薬, [2]九十九里ホーム)

【目的】高齢化社会の到来により、これからの薬剤師は在宅医療や介護分野での業務に積極的に参画する必要があり、そのような素養を身につけるための教育が必須となる。そこで本薬学部では 1 学年を対象とした early exposure としての取り組みにおいて福祉・介護施設での早期実務体験を実施した。体験後のアンケート調査から若干の知見を得たので報告する。

【方法】1 年生の薬学概論の授業の一部を利用し、209 人の学生を 50 人ずつの 4 クラスに分け、3 時間程度の見学を実施した。事前説明・講義を行い、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、身体障害者施設の 3 施設をそれぞれ見学し、施設の職員の方々から師説を受け、見学終了後、記名にてアンケートを実施した。

【結果・考察】多くの学生において、早期実務体験を行う必要性やその内容などについての問いに対して良好な回答を得た。また「意欲的に取り組めたか」、「もう一度体験したいか」などの問いに「はい」と回答する学生が多く、体験を行う価値があったと推測された。さらにコミュニケーション能力や問題解決能力、判断力、専門知識以外の幅広い知識習得の必要性などの薬剤師に必要な素養について認識することができたと窺える回答が多かった。超高齢化社会のニーズに答えられるこれからの薬剤師育成を考えた場合、福祉・介護施設を見学することは非常に有用であり、さらに病院や薬局見学ばかりでなく、福祉・介護施設の見学においても医療倫理や薬剤師に必要な素養についての認識を深めることは十分可能であると思われた。しかし、見学時間やグループ人数などに不満の声もあり、今後アンケート結果を元に早期実務体験のさらなる充実を図りたいと考える。